あゆみ

2024年4月
第748号

日本基督教団　平塚教会
発行人　平塚教会
編集人　中山洋司
〒254-0045　平塚市見附町6-18
電話　〇四六三（32）八八三一

神は歴史をつかさどる

平塚教会牧師　北川一明

民衆全体から尊敬されている律法の教師でファリサイ派に属するガマリエルという人が議場に立って…こう言った「イスラエルの人たち、あの者たち（キリスト者）の取り扱いは慎重にしなさい。以前にもテウダが自分を何か偉い者のように言って立ち上がり…った。彼は殺され、従っていた者は皆散らされて、跡形もなくなった。…そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。…あの計画や行動（キリスト教）が人間から出たものなら自滅するだろうし、神から出たものであれば彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ」。

（使徒言行録五・34～39）

キリスト教は、イエス・キリストを「まことの神」にして同時に「まことの人」と信じます。さらに、神は父・子・聖霊という三つの位格を持つという三位一体の教えを信じる教会が正統です。

人は本来神にはなれません。神も人とは違います。キリスト教の正統は、人間の論理には合わない不合理です。キリスト教がこの不合理を信じるようになった経緯は、高校世界史で教わります。四世紀のアリウス・アタナシウス論争の結果です。

異端とされたアリウスのほうが、まだ幾分は合理的でした。アリウス派は「イエスは人間なので神ではなかったが、神の御心にかなっていたので神の養子にしてもらえた」という考えでした。アタナシウス派は「人は神にはなり得ない。キリストは人だが、それでも神だ」と言い張りました。

アリウス・アタナシウス論争は、信仰、神学の問題を扱っています。しかし実際は政治的な権力争いも混じっていました。キリスト教で民心を掌握しようとするローマ帝国にとっては、キリスト教が内輪揉めするのは不都合でした。そこで皇帝は論争に決着をつけるよう命令しました。人間には決められないことを、無理矢理決めさせようとしたのです。

そういう時、キリスト教は「教会会議」で決めます。

目　次

神は歴史をつかさどる　牧師　北川一明 …1
世界祈祷日集会に導かれて　庄司壽美 …3
三年間の思い出を歌に託して卒園 …4
編集後祈 …4

人間には神の御心を知ることができません。そこで教会会議で決まったことを神の御心と信じるのです。

アタナシウスの三位一体説は、きわめて不合理です。そのためか、それとも政治的な力関係が大きく影響したのかは知りませんが、三位一体説はピンチにさらされました。旗色の芳しくないアタナシウスは、教会会議の会議日程をアリウス派の議員が集まれないように設定し、三位一体説を無理に通してしまいました。それでも手続き上の瑕疵はなかったので、教会は三位一体説を信じることになりました。より不合理な三位一体説が正統とされて、アリウス派の養子説が異端とされたのです。

このいきさつに、神のご計画の不思議を感じます。養子説が通っていたら、キリスト教は続かないで、今頃は「**皆散らされて、跡形もなく**（使徒五・36）」なっていたかもしれません。

近・現代人は、合理的に説明できるものだけを信じようとします。しかし「**信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認すること**（ヘブライ一一・1口語訳）」です。「**見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものを誰がなお望むでしょうか。私たちは目に見えないものを望…むのです**（ローマ八・25）」とある通り、理屈で確認できる範囲を超えた神を信じるのが信仰です。

イエス・キリストを「愛を説くために自分の命まで犠牲にした模範的な人物」と考えれば合理的です。しかしそれではキリストは「悪法も法」と言って正義に命を献げたソクラテスと変わりません。ただの「立派な人」です。既に死んでいる、かつては立派だった人に対して祈っても、死者には何もできません。それでは信仰は続きません。キリスト教信仰では、イエスは「立派な人」ではありません。「ただの人」でありながら「神の子救い主」と信じるのです。

それにしても、不正なやり方が混入したために正しいことが決まったアイロニーは、神のご計画の不思議です。

キリスト教は、今も合理化の誘惑にさらされています。16世紀の宗教改革は、キリスト教をかなり合理化しました。そのために近・現代の人間知性にも対応できるようになった正の側面と、宗教性を危うくして負の側面とあります。それでもプロテスタントは、キリスト教信仰を全て合理化したわけではありません。かつての七つの秘蹟を大幅に減らしましが、洗礼と聖餐だけは、なぜ有効なのか理屈で説明できないままで残しました。

ところが日本基督教団では、その聖餐まで怪しくなってきています。日本基督教団では、聖餐はキリスト者のみが与ります。それを合理派が、人権、差別という観点から無差別配餐を主張しました。どちらでも信仰と神学の問題として教会会議で決めれば良いのです。あとは各個教会、牧師個人、信徒個人が教団に従うか教団を抜けるか自由に選べば済みます。ところが聖餐問題は信仰問題にかこつけた利権争いになり、教団は乱れました。

最近の教団総会で、一応の決着がつきました。保守派（不合理派）の中でも政治的な人たちが、教会会議で受洗者にのみ配餐するのが正統と強引に結論づけたのです。神奈川教区ではその会議の正当性が議論されています。

アリウス・アタナシウス論争とその結末を思い出します。過程に人間の欲や敵意が混じり込んでいても、歴史全体は神によって動かされているようです。

なさい。」エフェソの信徒への手紙4章1節～7節に基づき全世界が祈ります。

司会の方々がパレスチナのシンボルであるオリーブの枝葉と柑橘類のバスケットを持って入場し、祭壇に献げました。異国の雰囲気です。

吹き抜けの二階から流れるパイプオルガンの演奏に合わせてパレスチナの讃美歌「神の平和が」を3回繰り返し歌い、礼拝の中で3人のパレスチナ人女性の証しを、今年は全員で読み合わせました。この証しは、私の心に強く刻まれたように思います。

一人目のエレノアさんはエルサレム旧市街地に代々続く家系で、1948年のナクバ（大惨事）でパレスチナ人の彼女の家は地図から消されました。隣家のユダヤ人が土地も持ち物も守ると約束してくださり、私たちもいつか帰宅できると思い描いていましたが、両親はその時を待たずに召されました。両親は、そのユダヤ人のことを、あたたかい思いでいつも感謝をもって話しており、どんなに苦しく辛いときにも共に生きることの大切さを学びました。

リナさんは2022年5月11日、ジャーナリストで叔母のシーリーンが難民キャンプを取材中に、イスラエル軍によって銃殺されました。叔母は理不尽な中でも生き抜き、パレスチナ人としてキリスト者・イスラム教徒双方のために奮闘しました。そして私に真実を語り続ける勇気を与えてくれました。

最後にサラさんですが、キリスト者として、そしてパレスチナ女性として生きています。祖父母はナクバまでは、イスラム教徒、キリスト者、ユダヤ教徒らと共に育ちました。何年か後、祖父母と両親と私たちは昔住んで居た家を訪ねました。しかし、その家の人は、私たちの話しを聞こうともせずに追い払ったのです。自分の家から締め出された時に握っていた家の「鍵」があります。私たちは、その家に帰れる日が来ることを希望をもって願っており、その心は「鍵」とともに世代を超えて受け継がれているとのことです。

これらの力強い証しのもとに、七つの

世界祈禱日集会に導かれて

庄司壽美

春の穏やかな3月1日（金）サザン通りの先、モダンな建築の茅ヶ崎恵泉教会を会場として世界祈禱日集会が行なわれました。西湘南地区の教派を超えた15教会から63名、平塚教会からは7名が集いました。

今年はパレスチナの女性たちが新型コロナ感染拡大時に作られた式文「あなたがたに勧めます…愛をもって互いに忍耐し

「パレスチナの祈り」を参加者一同の祈りとして献げられました。

茅ヶ崎堤伝道所の細井宏一伝道師からは「一致とは神が中心にいること。多様性のある人間一人ひとり、生かされていることをリスペクトする大切さ」のメッセージを頂きました。

礼拝後は茅ヶ崎地区の方々の温かい茶菓のおもてなしを受けて互いに再開を喜びあう時が与えられました。

別室で茅ヶ崎地区から次回担当の平塚地区(平塚・大磯・二宮)へ引継ぎが行われ、初めて参加した私は、こうして世界祈禱日は近隣教会と連携し協力し合う中で開催できていることを知りました。

パレスチナについて良く解らなかった私ですが、女性たちの証しと祈りの礼拝をとおして「敵対する相手に対しても、同じ人としてリスペクトする」心が今、必要なのではと考えました。改めて世界祈禱日に招かれましたことを心から感謝致します。

三年間の思い出を歌に託して卒園

「卒園する子ども達が、三年間の思い出を歌ってくれた時、ジーンとなって涙が自然に溢れてきました。」　3月15日に行われた附属平塚二葉幼稚園卒園式に列席した方の感想です。

幼稚園年長ゆり組21名の園児達は、自分達が過ごした幼稚園での生活を歌で表現して、卒園式で歌うこととしました。世界で一つしかない歌を作ることとしたのです。

子ども達は、一日の終わりに行う終礼時に歌詞を考えることとしました。まず一人ひとりが思い出を出しました。そしてつなげて歌詞の原案を作り、何所をどのように繋げるかや文言を変えながら作詞しました。題名も皆で考えて「いっしょうのたからもの」と名付けました。

最後に担任の先生方が曲を付け、卒園式でのお披露目となりました。

一人ひとりの卒園生が、幼稚園で得た素敵な宝物を心に秘めて、小学校の門をくぐって欲しいものです。

「いっしょうのたからもの」 歌詞：ゆりぐみ

1.　初めて幼稚園に来た時のことを
思い出してみた
たった１人で砂場で遊んでいた時
そっと君が呟いた「一緒に遊ぼう」
「仲間に入れて」嬉しかった　初めての友だち　友だちって、仲間って
小さなことから　始まるんだ
たくさんの大きな笑顔と
共に過ごした日々にありがとう

2.　仲間と作ったサバンナの森
一緒に行った夏の旅行
忘れられないバイキング
温泉に入ったり、夜の花火もしたよね
運動会では「お願い」と言って
君にバトンを渡したよ、力を込めて
ケンカもたくさんしたよね、
心がちくちくしたよ
君がとても大切だって、
初めて気づいたんだ
これから別々の場所で生きていくけれど
忘れない、君のこと　仲間のこと
友だちの事　大好きだよ、大好きだよ
ありがとう

【編集後祈】

一年が終わりました。原稿をお書きくださった方、編集のご苦労をしてくださった戸部様、読んでくださった皆様、そして導いてくださいました神様に感謝いたします。

（編集子）